

令和3年愛知の死亡災害発生状況（速報版）

愛知労働局安全課

1 死亡災害の発生状況

愛知県内の死亡災害は年間40人台を中心に推移していたが、令和3年は25人と令和2年の半数となり過去最少となった。

業種別分類では製造業で令和2年比1件の増加であったが、建設業、陸上貨物運送業においては過去最少となった。

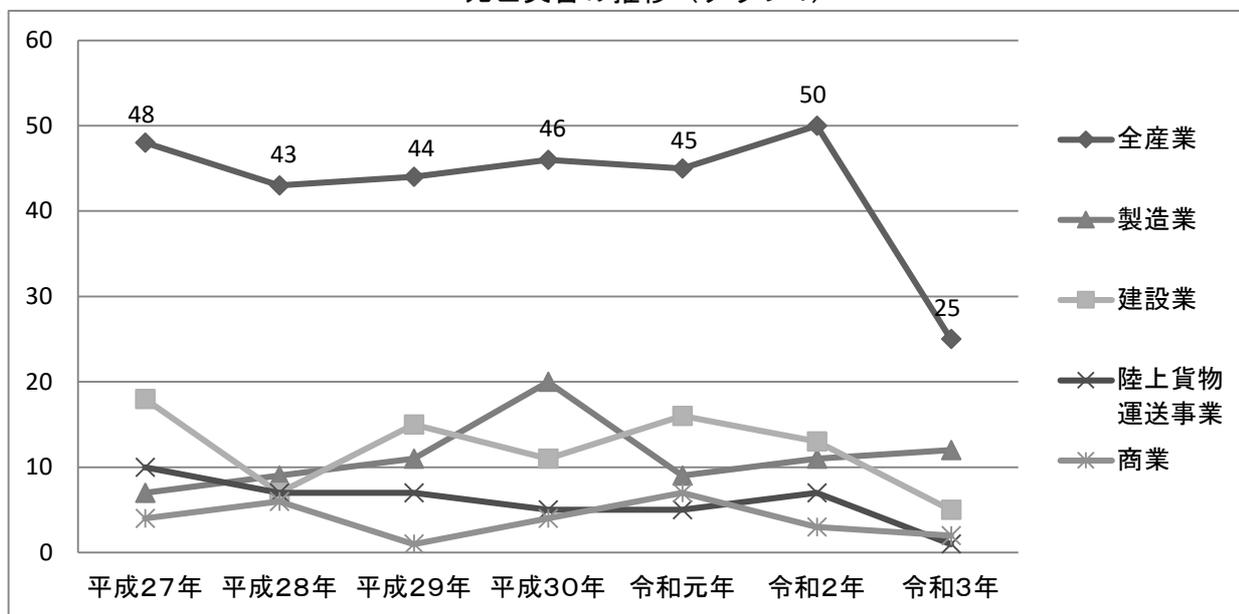
【表1、グラフ1】

（表1）

年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
死亡災害	全産業	48	43	44	46	45	50	25
	製造業	7	9	11	20	9	11	12
	建設業	18	7	15	10	16	13	5
	陸上貨物運送事業	10	7	7	4	5	7	1
	商業	4	6	1	4	7	3	2

（令和3年は、令和4年1月11日現在速報値で未確定、平成27～令和2年は確定値）

死亡災害の推移（グラフ1）

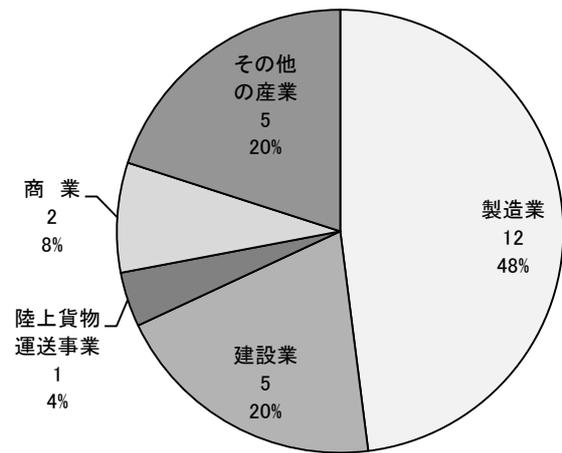


2 業種別死亡災害発生状況

～製造業で増加したが、他の業種で減少～

	令和3年 (速報値)	令和2年 (確定値)
製造業	12	11
建設業	5	13
陸上貨物 運送事業	1	7
商業	2	3
その他 の産業	5	16
合計	25	50

令和3年 業種別死亡災害発生状況 (表2)



令和3年 業種別死亡災害発生状況 (グラフ2)

業種別の死亡災害発生状況については、グラフ2のとおり製造業が最も割合が高く48%を占め、次いで建設業が20%となっており、これら2つの業種で全体の68%を占めている。

3 事故の型別死亡災害発生状況

～墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ、交通事故で64%を占めている～

	全産業	製造業	建設業	陸上貨物 運送事業	商業
墜落・転落	6		4		
はさまれ・巻き込まれ	5	5			
交通事故(道路)	5	1		1	2
倒壊・崩壊	2	1	1		
激突され	2	1			
有害物等との接触	1	1			
感電	1	1			
おぼれ	1	1			
その他	2	1			
合計	25	12	5	1	2

令和3年 事故の型別死亡災害発生状況 (表3)

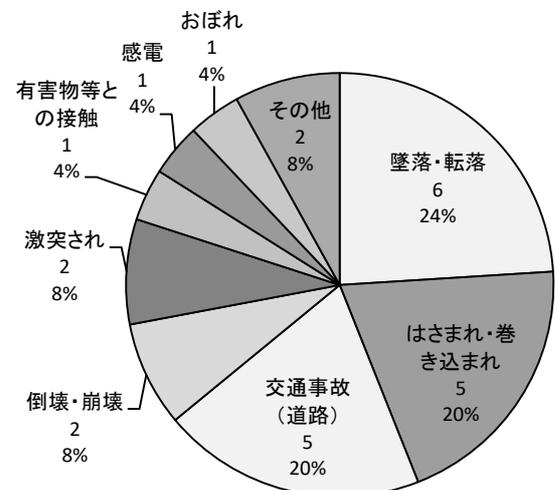
事故の型別の死亡災害発生状況については、表3・グラフ3のとおり全産業では、墜落・転落が最も多く24%を占め、次いで、はさまれ・巻き込まれ並びに交通事故(道路)が20%を占め、これら3つの事故の型で全体の64%を占めている。

製造業では、はさまれ・巻き込まれが最も多くを占めており、令和2年の3人から7割増加した。

建設業では、墜落・転落が最も多くを占めており、令和2年の2人から倍増したものの、これ以外は倒壊・崩壊の1人のみであった。

陸上貨物運送事業では、交通事故(道路)の1人が唯一の発生であり令和2年と比較すると大幅に減少した。

商業は、交通事故(道路)の2人が唯一の発生となっている。



令和3年 事故の型別死亡災害発生状況 (グラフ3)

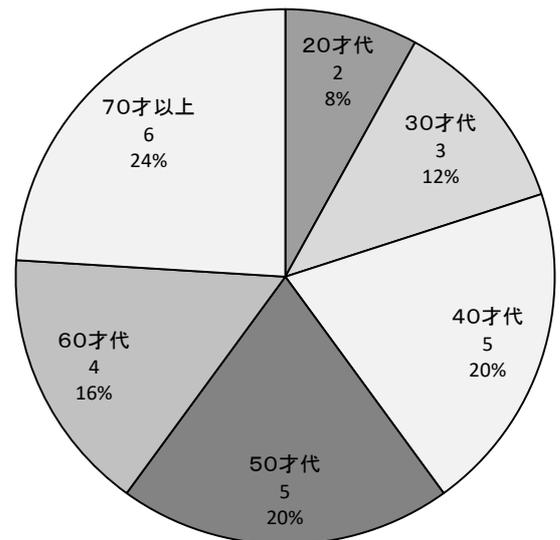
4 年齢別死亡災害発生状況

～70才以上が最多の24%を占めている～

	全産業	製造業	建設業	陸上貨物 運送事業	商業
19才未満					
20才代	2	1			
30才代	3	2	1		
40才代	5	3	1		1
50才代	5	4	1		
60才代	4	1	2	1	
70才以上	6	1			1
合計	25	12	5	1	2

令和3年 年齢別死亡災害発生状況（表4）

年齢別の死亡災害発生状況については、表4・グラフ4のとおり、70才以上が最も多く全体の24%を占め、次いで40才代並びに50才代が20%を占めている。
40才以上でみると全体の80%を占めている。



令和3年 年齢別死亡災害発生状況（グラフ4）

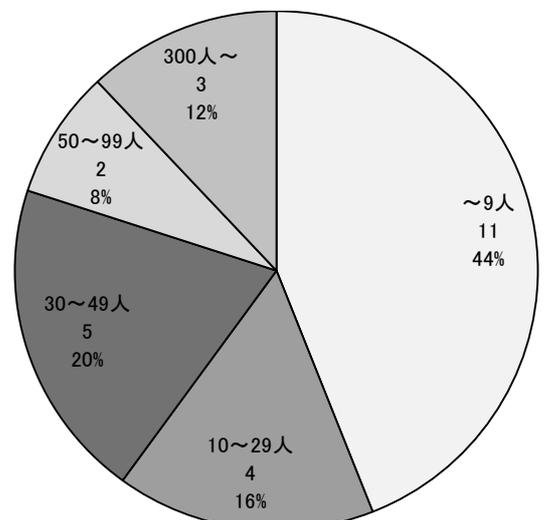
5 事業場の規模別死亡災害発生状況

～規模50人未満の事業場で80%を占める～

	全産業	製造業	建設業	陸上貨物 運送事業	商業
1～9人	11	3	5	1	1
10～29人	4				1
30～49人	5	4			
50～99人	2	2			
100～299人					
300人以上	3	3			
不明					
合計	25	12	5	1	2

令和3年 事業場規模別死亡災害発生状況（表5）

事業場規模別の死亡災害発生状況については、表5・グラフ5のとおり、安全・衛生管理者等の選任義務のない50人未満の事業場において全体の80%を占めている。特に事業場規模10人未満においては全体の44%を占めている。



令和3年 事業場規模別死亡災害発生状況（グラフ5）

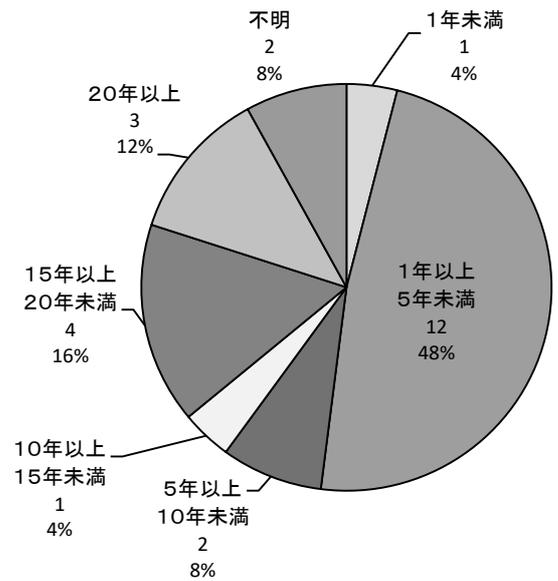
6 経験別の死亡災害発生状況

～経験年数5年未満で52%を占める～

	全産業	製造業	建設業	陸上貨物 運送事業	商業
1年未満	1	1			
1年以上5年未満	12	5	1	1	1
5年以上10年未満	2	1	1		
10年以上15年未満	1		1		
15年以上20年未満	4	3			1
20年以上	3	2	1		
不明	2		1		
合計	25	12	5	1	2

令和3年 経験別死亡災害発生状況（表6）

経験別の死亡災害発生状況については、表6・グラフ6のとおり、全産業では、経験年数1年以上5年未満が最も多くを占めている。特に、経験年数5年未満の発生率が全体の52%を占めている。

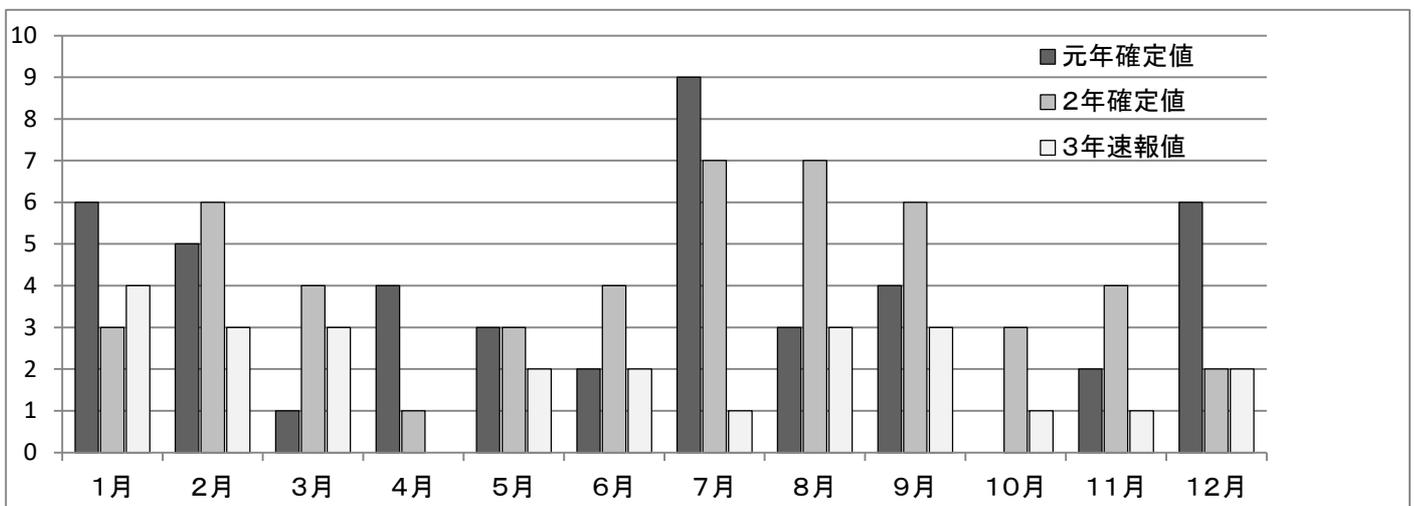


令和3年 経験別死亡災害発生状況（グラフ6）

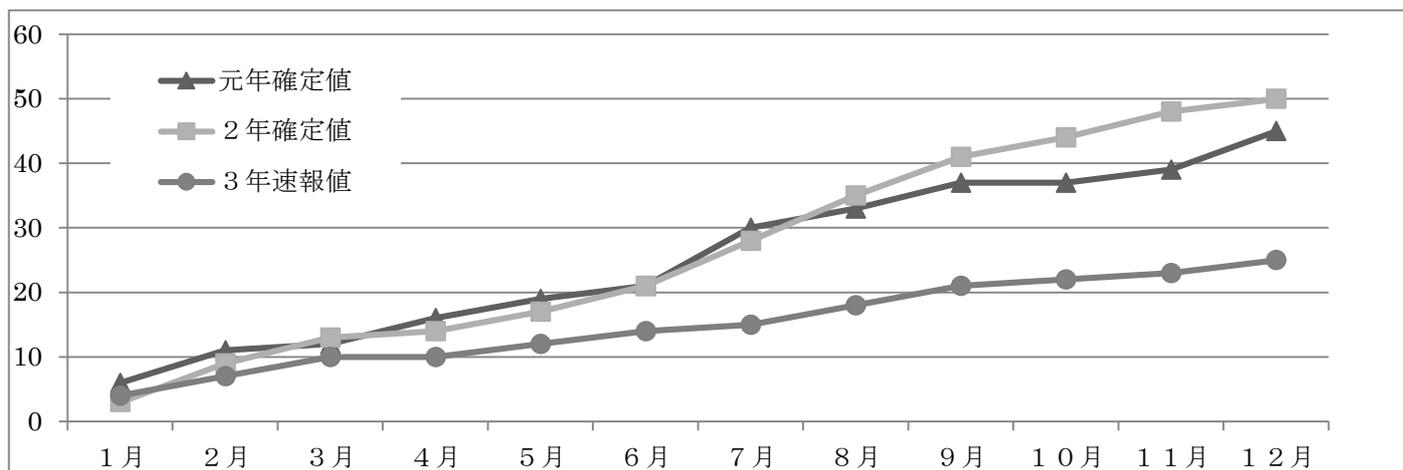
7 月別の死亡災害発生状況

～1月が4人と最も多く発生した～

（グラフ7-1）



(グラフ7-2)



まとめ

愛知労働局が策定した第13次労働災害防止推進計画（平成30年度～令和4年度）では、死亡者数を令和4年までの早期に40人を下回り、さらなる減少を目指すことを目標のひとつとしたところである。

令和3年の死亡災害は、令和4年1月11日現在の速報値が25人と目標を大幅に下回っており、愛知労働局では、今後さらなる減少を目指すために、リスクアセスメントの推進・定着を強力に推進することとしている。

発生日時	事故の型/起因物	災害発生状況・原因
R3.8.10. 2021 11:00	崩壊・倒壊 その他の装置・設備	集塵機の組付け作業中、サイクロンを取り付けるために集塵機の上を取り外していたところ、集塵機に取り付けられていた取付板（約270kg）が倒れてきて、取付板を押えていた被災者が下敷きとなった。取付板は集塵機本体にボルトで仮止めされていたが、倒れた時には組付け作業の都合でボルトが全て外されていた。
事業場規模 9名以下 業種 一般機械器具製造業 60代 溶接工 経年 0年		
R3.11.25. 2021 10:50	はさまれ・巻き込まれ 産業用ロボット	自動車部品製造工程において、溶接用ロボットが異常を起こして停止していたため原因を確認していたところ、突然ロボットが動き出し首付近をはさまれた。
事業場規模 300～499名 業種 輸送用機械等製造業 40代 機械工 経年 1年		
R3.12.9. 2021 14:25	激突され 立木等	牧場内の道で倒れているところを発見された。状況から、道脇の斜面に自生している立木をチェーンソーを用いて伐採していたが、倒れなかったため放置して付近で他の作業をしていたところ、当該立木が倒れて激突したものと推定されている。
事業場規模 10～29名 業種 畜産・水産業 70代 作業者 経年 年		
R3.12.29. 2021 0:00	墜落・転落 建築物・構築物	解体工事中にスレート屋根を踏み抜いて墜落したとみられる(詳細確認中)
事業場規模 9名以下 業種 建築工事業(木建以外) 50代 解体工 経年 年		

令和3年 西尾支署業種別労働災害発生状況

令和3年12月末現在

業 種		年 別		増 減			
		令和3年	令和2年	増減数	増減率		
		死傷	死亡	死傷	死亡		
製 造 業		60		54		+6	+11.1%
製 造 業	食 料 品 製 造 業	4		7		-3	-42.9%
	織 維 工 業	2		2		0	0.0%
	鉄 鋼 業	18		6		+12	+200.0%
	金 属 製 品	2		7		-5	-71.4%
	一 般 機 械 器 具	10		5		+5	+100.0%
	輸 送 機 械 製 造	13		14		-1	-7.1%
	上 記 以 外 の 製 造 業	11		13		-2	-15.4%
建 設 業		17		13		+4	+30.8%
建 設 業	土 木 工 事 業	3		5		-2	-40.0%
	建 築 工 事 業	11		7		+4	+57.1%
	そ の 他 の 建 設 業	3		1		+2	+200.0%
陸 上 貨 物 運 送 事 業		10		9		+1	+11.1%
小 売 業		19		14	1	+5	+35.7%
小 売 業	新 聞 販 売	3		3		0	0.0%
	そ の 他 の 小 売 業	16		11	1	+5	+45.5%
通 信 業		2		6	1	-4	-66.7%
社 会 福 祉 施 設		12		7		+5	+71.4%
飲 食 店		4		5		-1	-20.0%
清 掃 ・ と 畜 業		7		9		-2	-22.2%
上 記 以 外 の 事 業		25		19	1	+6	+31.6%
合 計		156	0	136	3	+20	+14.7%